

江田島市オリーブ振興計画変更

令和2年3月改定

江田島市

目 次

1	計画変更の趣旨	1
2	計画の期間	1
3	これまでの取組	1
4	変更前計画の目標値に対する実績値	4
5	目標値	6
6	目標に向けての施策体系	8
7	主な取組	9
	（1）育てる（植える，実らせる）	9
	（2）加工する（搾る，商品化）	10
	（3）売る（販売，売り込む）	11
	（4）使う（食卓で使う，地域で使う）	12
8	推進体制	13

1 計画変更の趣旨

江田島市は、農業振興策の一つとして「オリーブ」を新たな作物と位置付け、耕作放棄地の解消策として栽培を進めるほか、収穫物などを活用した6次産業化を図ることを目的とし、平成28年11月に「江田島市オリーブ振興計画」（以下、「原計画」という。）を策定しました。

原計画において中間年（令和元年度）において見直しを行うこととしており、平成28年度から令和元年度までの取組や実績を踏まえ、今後5年間の推進計画として一部変更を行うものです。

2 計画の期間

変更計画は、原計画の計画期間（平成28年度～令和6年度）の中間年での見直しであるため、目標年次は、令和6年度とします。

3 これまでの取組

(1) 育てる取組

本市は、平成22年度から市民にオリーブを身近に感じてもらえるように苗木の購入助成を行い、オリーブの普及を開始しました。そして、平成23年6月に江田島市オリーブ振興協議会（以下「協議会」という。）を設立しました。

協議会では、オリーブ栽培の普及や栽培技術の調査研究、オリーブの消費拡大に関する啓発・広報等の各種事業を展開しており、平成28年4月から地域おこし協力隊を採用し、さらなる普及啓発活動を行い、栽培指導を行うため栽培講習会等を定期的に開催しています。また市の景観づくりと地域コミュニティの醸成のためモデルオリーブ園を市内3箇所（小用地区、沖地区、柿浦地区）に設置しました。

平成29年10月には「江田島市オリーブ栽培者の会」を設立し、より本格的な栽培の取組を開始しました。また平成23年から行っている大柿町深江地区でのオリーブ園地の造成工事が平成26年3月に完成し、3社の参入企業によって約6.6haのオリーブの栽培が開始されています。こうした取組により市内における平成30年度末現在の植栽面積は28.1ha、植栽本数14,852本となっています。

栽培については、決して順調でなく、収穫量等が原計画より低位となっており、平成29年8月に広島県立総合技術研究所 農業技術センターと連携し、市内の優良な圃場と深江地区オリーブ園での土壌成分検査、水分検査を実施し、平成30年度からは深江地区オリーブ園で施肥実験を行い、その状況の追跡調査を行っています。これらの結果を基に、江田島市の特性に合った栽培管理方法の確立に取り組んでいます。

(2) 加工する取組

協議会は、平成24年7月に主に生産者が家庭において使用する油を搾油するため広島県で初となる小型オリーブ搾油機を市内に設置しました。その後、平成28年7月には、参入企業

が1機搾油機を導入しています。

令和元年9月には、オリーブオイルの6次化を進めるため、協議会が設置した自家消費搾油機を販売が可能となるよう運用を変更し、栽培者自身がオリーブオイルの商品を製造販売することが可能となり、現在、3者の方が販売を開始しています。

オリーブオイルの商品については、平成31年4月に参入企業が江田島産のオリーブ果実で製造したオリーブオイルが、イタリアで開催されたオリーブオイルコンテストにおいて2部門で1位を獲得しました。

(3) 売る取組

江田島産オリーブのPRについては、江田島市HP及び広報紙により情報発信を行ってきました。市は一般市民を対象とし、オリーブを活用した講座を開催し、生産者はオリーブの収穫に伴うイベントを市内各地で開催しました。そうした活動の中から商工会と連携してオリーブオイルを使った海自カレーも誕生しました。

また、オリーブ冠を市内外のスポーツ大会に提供しており、中でも天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会、世界フィギュアスケート国別対抗戦及びNHK杯国際フィギュアスケート競技大会に提供することで江田島市のオリーブをPRすることができました。

(4) 使う取組

市や協議会では、家庭料理にオリーブオイルと身近な地域食材を使うことに興味を持ってもらうため、食育レシピコンテスト等を実施しています。平成30年度からは、市内の飲食店の協力を得て、地元の食材のコラボレーションによるメニューを開発することで「えたじまぐるとオリーブラリー」を開催し、オリーブオイルや果実の加工などの普及を推進しています。

食農体験型のイベントとして収穫体験などを開催し、市民や観光客がオリーブにふれあい楽しめるイベントとして「えたじまオリーブ・ミュージアム祭典」や「えたじマルシェ」が開催されています。

また、市内の小中学校においては、オリーブの栽培や活用などの出前授業を実施し、ふる里教育に取り組んでいます。

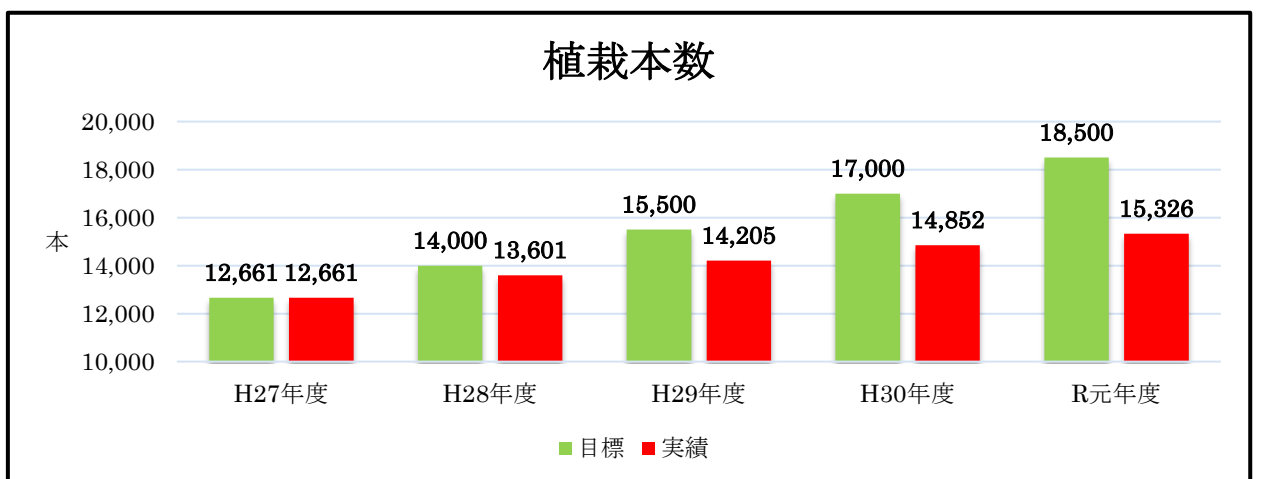
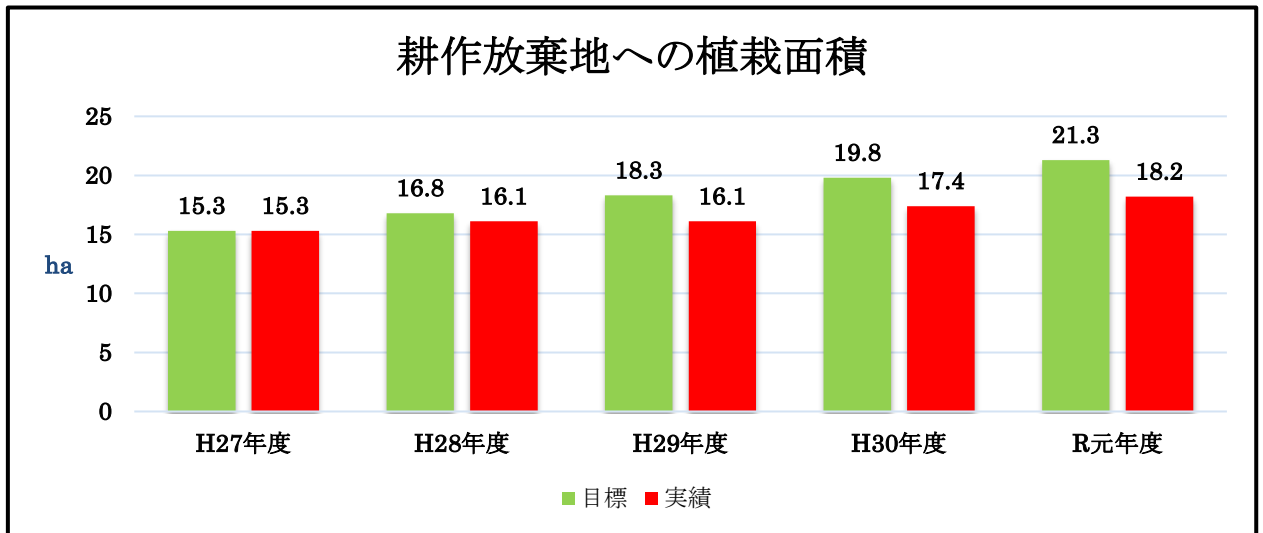
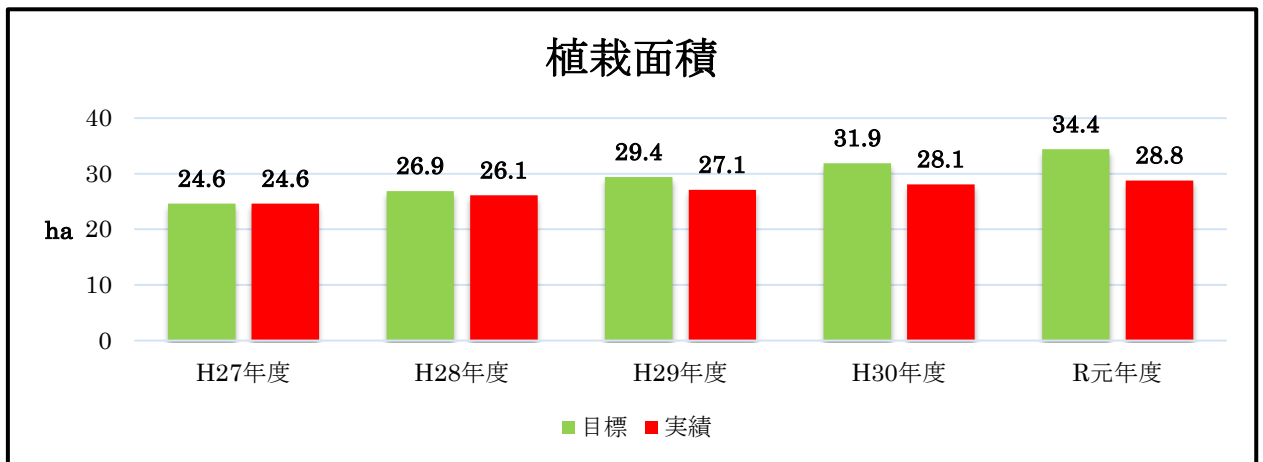
さらに、将来にわたる広島市との縁づくりのために広島市内の小中学校にオリーブ苗木を植樹し、両市の小中学校の生徒の交流を促進しました。

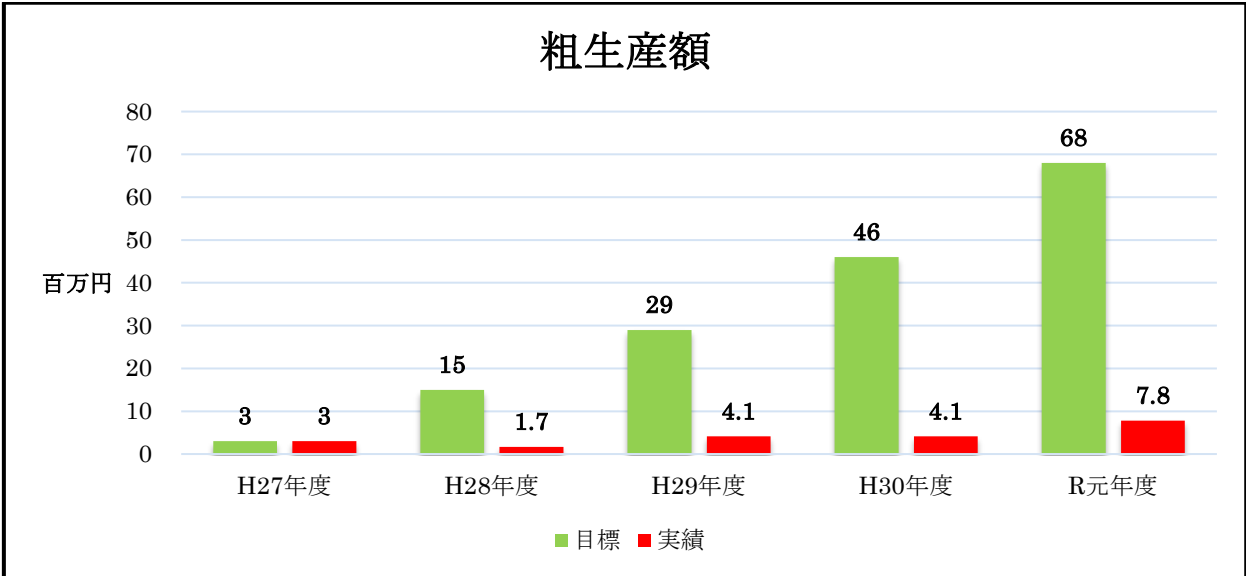
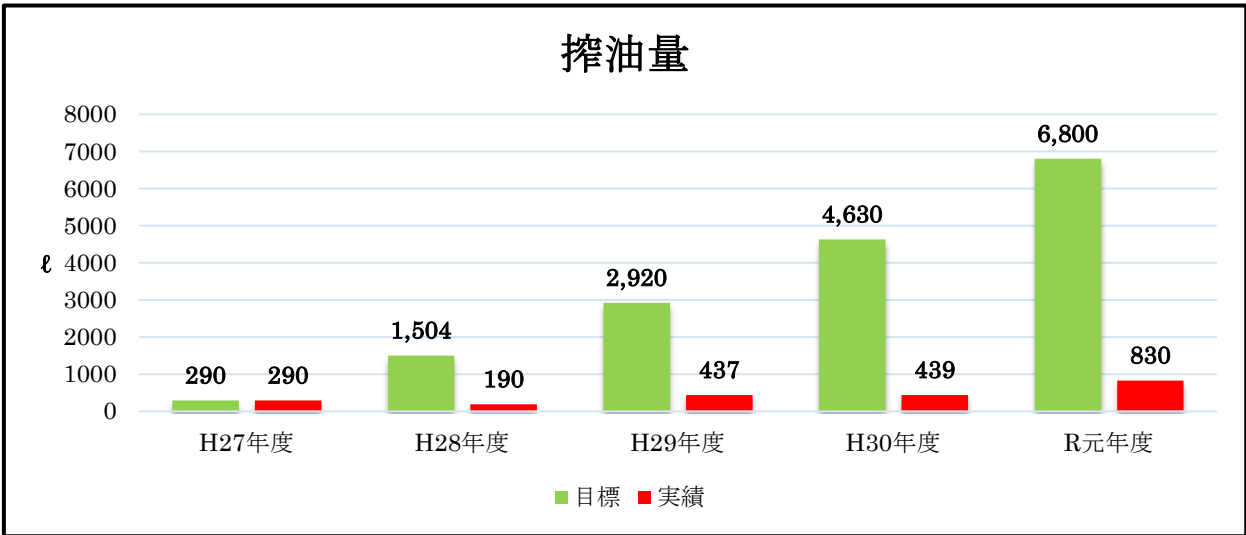
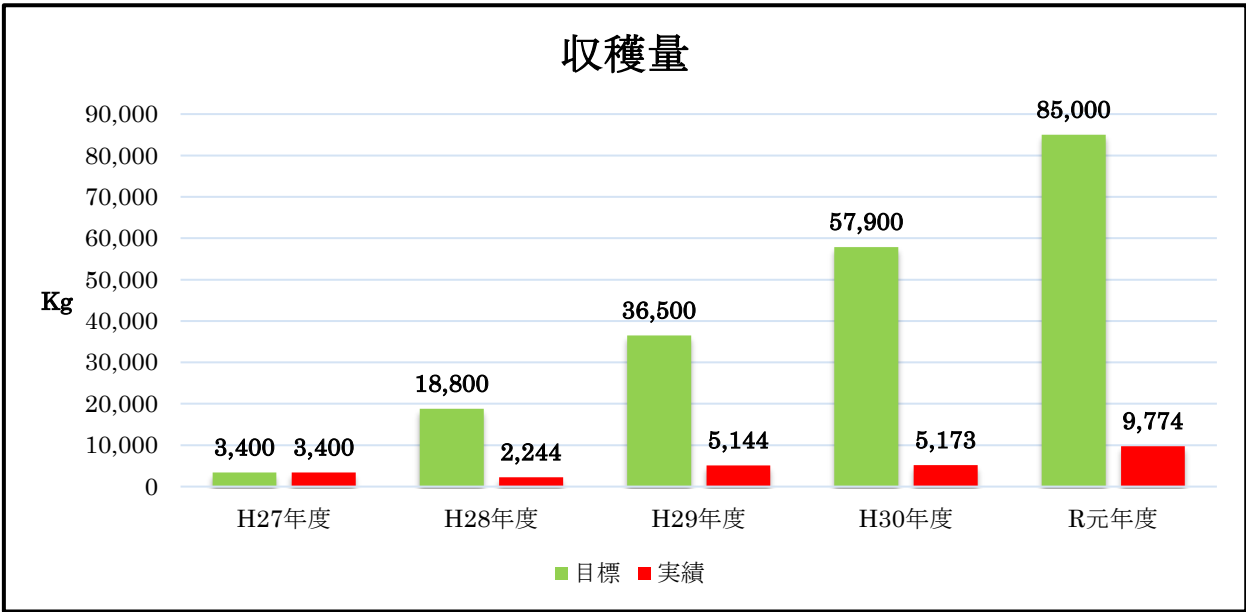
このような取組から、江田島市民や観光客のオリーブに対する関心や認知度は確実に上がっており、「江田島市といえばオリーブの島」と言われ始めています。

【主な取組】

年 月	事 項
平成 22 年 3 月	市民へ苗木購入助成，オリーブ講習会等を開催
平成 23 年 6 月	江田島市オリーブ振興協議会の設立
平成 24 年 7 月	広島県初となるオリーブ搾油機設置，初搾油
平成 26 年 1 月	天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会の表彰式にオリーブ冠提供
平成 26 年 3 月	農業団地（深江地区オリーブ園）完成
平成 29 年 4 月	世界フィギュアスケート国別対抗戦 2 0 1 7 の表彰式にオリーブ冠提供
平成 29 年 10 月	江田島市オリーブ栽培者の会の設立
平成 31 年 4 月	民間企業がイタリアで開催されたオリーブオイルコンテストにおいて 2 部門で 1 位を獲得

4 変更前計画の目標値に対する実績値





【実績値に対する考え方と原因】

- ① 計画では、収穫量については3年生の苗を植栽して2年後（5年生）から収穫できると設定し、樹が成木になるにつれ10a当たりの収穫量（5年生約324kg→8年生約648kg）が増えることを想定し設定していました。しかしながら実績では、計画値の10%程度となっています。主な理由としては、各年度の苗木の配布本数が思うように伸びず、植栽本数が計画と乖離していることに加え、市民へのオリーブ栽培指導が徹底しなかったため、苗木、品種、圃場によって生育状況や結実にバラつきがみられたためです。また、表年、裏年の隔年があることも影響しています。
- ② 搾油量については、収穫量が目標値とかけ離れているため計画と乖離しています。
なお、搾油量の算出根拠は、収穫量（kg）×8.5%としています。
- ③ 植栽本数は6本/aとして算出しています。
- ④ 粗生産額については、実の買い取り価格を800円/kgと仮定し、収穫量に乗じて計算しています。
- ⑤ 植栽面積及び植栽本数については、苗木の配布実績の累計です。耕作放棄地への植栽面積については、オリーブ振興推進補助金（農地再生活動事業）を利用した面積の累計です。

5 目標値

原計画の数値と乖離が大きいため、過去5箇年実績を基本として数値の見直しを行いました。

	令和元年度現況値 (改定前目標値)	令和6年度 (改定前目標値)
①植栽面積 (ha)	28.8 (34.4)	34.3 (46.9)
②内耕作放棄地への植栽面積 (ha)	18.2 (21.3)	21.2 (28.8)
③植栽本数 (本)	15,326 (18,500)	18,826 (26,000)
④収穫量 (kg)	9,774 (85,000)	20,276 (202,760)
⑤搾油量 (ℓ)	830 (6,800)	1,723 (16,220)
⑥粗生産額 (百万円)	7.8 (68)	16.2 (162)

また、目標年次に向けた目標達成のため、各年次進捗目標を次のとおりとします。

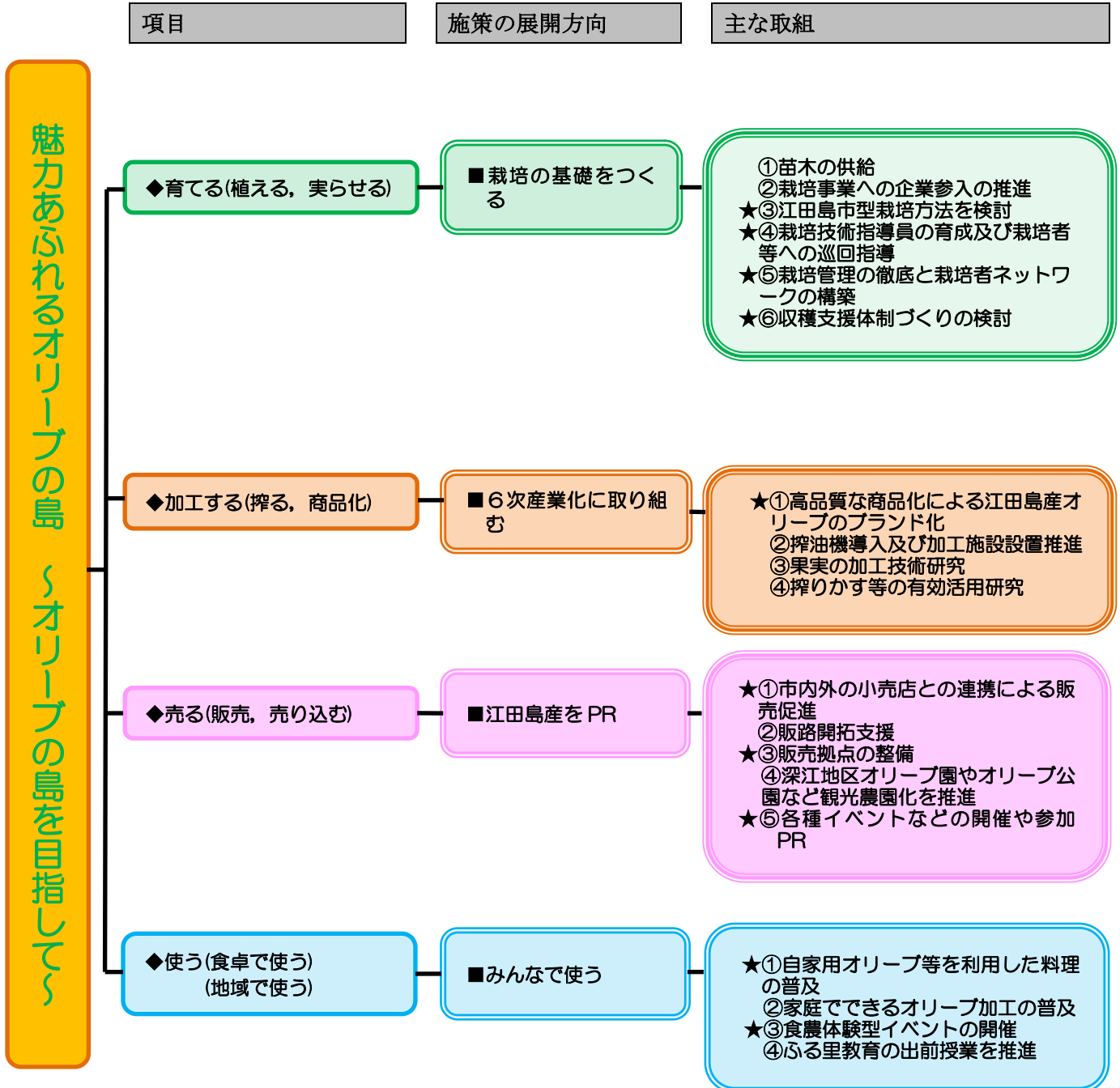
上段：単年度目標／下段：累計

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①植栽面積 (ha)	28.8	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
		29.9	31.0	32.1	33.2	34.3
②内耕作放棄地への植栽面積 (ha)	18.2	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
		18.8	19.4	20.0	20.6	21.2
③植栽本数 (本)	15,326	700	700	700	700	700
		16,026	16,726	17,426	18,126	18,826
④収穫量 (kg)	9,774	11,526	13,310	15,582	18,000	20,276
⑤搾油量 (ℓ)	830	979	1,131	1,324	1,530	1,723
⑥粗生産額 (百万円)	7.8	9.2	10.6	12.4	14.4	16.2

6 目標に向けての施策体系

オリーブの振興を図るため、施策体系を示し方向性を位置づけます。

★今後5年間に特に強化する取組です。



魅力あふれるオリーブの島
〜オリーブの島を目指して〜

7 主な取組

◆育てる（植える，実らせる）

本市では，耕作放棄地の解消に向けた作物としてオリーブの栽培を推進します。

産地として認知されるために，収穫量の増加を図る必要があります。そのために，苗木の供給を行い，栽培者への栽培技術指導の行い栽培管理の徹底を図ります。また，栽培技術の研究を行い，栽培者の技術向上による所得向上に取組ます。

	【令和元年度】		【令和6年度】
○オリーブ植栽面積	28.8ha	→	34.3ha
○オリーブ植栽本数	15,326本	→	18,826本
○オリーブの収穫量	9,774kg	→	20,276kg

【実施事業】

- ①苗木の供給
- ②栽培事業への企業参入の推進
- ③★江田島市型栽培方法を検討
- ④★栽培技術指導員の育成及び栽培者等への巡回指導
- ⑤★栽培管理の徹底と栽培者ネットワークの構築
- ⑥★収穫支援体制づくりの検討

★は強化する事業

① 苗木の供給

「江田島市オリーブ栽培者の会」に入会することを苗木購入助成の申込条件とし，作物の転換や耕作放棄地対策としてオリーブの苗木の購入助成を行い，産地化を一層進めていきます。

② 栽培事業への企業参入の推進

民間の活力を活用し，さらなる栽培拡大及び6次産業化を進めます。

③ ★江田島市型栽培方法を検討

広島県立総合技術研究所 農業技術センターと連携し，市内の優良な圃場と深江地区オリーブ園での土壌成分検査と水分検査を実施し，平成30年度からは深江地区オリーブ園で施肥実験を行って状況を追跡しています。これらの結果を基に江田島市にあった栽培管理方法の調査研究に取組ます。

④ ★栽培技術指導員の育成及び栽培者等への巡回指導

オリーブを栽培する土壌の改良や害虫対策等，栽培技術指導員を地域おこし協力隊などの外部人材を活用するなどにより育成します。また，栽培者等への個別訪問により栽培技術指導を行います。

⑤ ★栽培管理の徹底と栽培者ネットワークの構築

市民に対して、広報紙や「オリーブだより」により、定期的に栽培管理方法の情報を発信します。

また、防除、剪定及び植付けなどの栽培講習会を定期的に行います。栽培講習会では、座学後、圃場での実習を行うことにより、オリーブ栽培者同士が栽培管理などの技術的な情報交換及び交流の場となるように研修を行い、栽培者のネットワーク構築を図ります。

⑥ ★収穫支援体制づくりの検討

今後、オリーブ果実の収穫量が増加する中で、栽培者の高齢化により収穫作業の支援が必要となります。このため対応できる体制づくりを検討します。

◆加工する（搾る、商品化）

■施策の展開方向：6次産業化に取り組む。

本市では、オリーブの6次産業化に取り組みます。そのため、江田島産オリーブが市内で搾油できる体制を整えていきます。

また、オリーブは食用オイルだけでなく、果実の加工によりその他の食品への活用が可能です。また、葉、枝、搾油後の残渣及び剪定くず等、オリーブの全てが商品として使用できる可能性がありますので、あらゆる分野で商品開発に向けた支援を行っています。

	【令和元年度】		【令和6年度】
○搾油量	8300	→	1,7230

【実施事業】

- ①★高品質の商品化による江田島産オリーブのブランド化
- ②搾油機導入及び加工施設設置推進
- ③果実の加工技術研究
- ④搾りかす等の有効活用研究

★は強化する事業

① ★高品質の商品化による江田島産オリーブのブランド化

「江田島産オリーブ」のブランド化を高めます。このため、企業との連携を進めます。

② 搾油機導入及び加工施設設置推進

オリーブ収穫量の増加に伴い、参入企業の導入を支援します。また、既に設置している企業等や6次化を目指す生産者との協力体制を整えていきます。

③ 果実の加工技術研究

果実の加工方法等について、調査研究に取り組みます。また、オリーブ果実の加工を手掛ける加工業者の発掘についても併せて行っていきます。

④ 搾りかす等の有効活用研究

研究機関と連携し、搾りかすの有効活用についての研究を行います。

◆売る（販売，売り込み）

■施策の展開方向：江田島産を PR

日本各地でオリーブ栽培が行われています。他の地域と差別化を図るために、高品質な商品を出すことで「江田島産オリーブ」のブランド化を高め知名度を上げるとともに、普及啓発活動や販路開拓に取り組んでいきます。

また、市内の関係機関と連携し、オリーブを通じた観光振興に取り組みます。

	【令和元年度】		【令和6年度】
○粗生産額	7.8 百万円	→	16.2 百万円

【実施事業】

- ①★市内外の小売店との連携による販売促進
- ②販路開拓支援
- ③★販売拠点の整備
- ④深江地区オリーブ園やオリーブ公園など観光農園化を推進
- ⑤★各種イベントなどの開催や参加 PR

★は強化する事業

① ★市内外の小売店との連携による販売促進

市内外の小売店などに「江田島産オリーブ」を認知・販売促進のため PR 事業やマスコミ, facebook などの SNS による情報発信を積極的に行い、消費拡大を図ります。

② 販路開拓支援

関連する情報などを発信し、販路開拓を支援します。そのため商工会などと連携し支援します。

③ ★販売拠点の整備

商品化推進のため多様な販売拠点を設置します。

④ 深江地区オリーブ園やオリーブ公園など観光農園化を推進

民間活力を活用するなど、オリーブを利用した観光農園や食農体験ができる拠点の整備を推進します。

⑤ ★各種イベントなどの開催や参加 PR

市内はもとより、近隣都市における各種イベントに参加するとともに、市内でのオリーブを題材としたイベントを開催します。

また、PR 事業として市内外のスポーツ大会にオリーブ冠を提供し、オリーブの島としての認知度を高めます。

◆使う（食卓で使う，地域で使う）

■施策の展開方向：みんなで使う

市民の食習慣として定着するよう，身近な食材として普及啓発活動を行うため，食育の推進をはじめ，料理としての活用推進に取り組みます。

【実施事業】

- ①★自家用オリーブ等を利用した料理の普及
- ②家庭でできるオリーブ加工の普及
- ③★食農体験型イベントの開催
- ④ふる里教育の出前授業を推進

★は強化する事業

① ★自家用オリーブ等を利用した料理の普及

協議会は，市民が栽培したオリーブの果実を搾油し，自家用オイルとして提供します。これにより，オリーブオイルが身近な食材となり，健康づくりにもつなげます。

また，洋食だけでなく和食にも合うオリーブオイルと身近な食材と家庭料理に関心を持ってもらうために食育レシピコンテスト等を実施し，普及に努めます。

また，市内の飲食店の協力により地元の食材のコラボレーションによるメニューを開発することで「えたじまぐるっとオリーブラリー」を開催し，オリーブオイルや果実の加工などの普及を推進します。

② 家庭でできるオリーブ加工の普及

家庭でできる果実の加工方法を広めるために公民館などで新漬けの作り方の講習会等を実施し，少量の果実でも無駄のない活用を進めてもらい，家庭でできる料理などの普及に努めます。

③ ★食農体験型イベントの開催

収穫体験などのイベントを開催し，市民や観光客がオリーブにふれあい楽しめるイベントの定着を目指します。

④ ふる里教育の出前授業を推進

市内の小中学校において，オリーブの栽培や活用などの出前授業を実施し，ふる里教育に取り組めます。

8 推進体制

江田島市オリーブ振興計画の推進に当たっては、関係機関・団体との連携強化を図ることが重要となります。

